

<試験の区分(物理)>

福岡管区気象台 気象防災部 予報課 令和2年度採用



【1日の仕事の流れ】

8:30 出勤・引継ぎ

夜勤者から明日までの天気の詳細について、防災事項や着目点などの引継ぎを受けます。

9:00 11時発表天気予報の作成

地方気象台の担当者と相談しながら、10時30分までに天気予報の作成を行います。

12:00 昼休み

業務の特性上、基本昼食は自席で食べますが、気象状況が落ち着いていれば周囲の人と談笑する事もあります。

13:00 17時発表天気予報の作成

11時発表の天気予報と同様に、地方気象台の担当者と相談しながら、16時30分までに天気予報の作成を行います。

14:00 予報打合せ

九州北部地方全ての地方気象台と17時発表の天気予報に向けたテレビ会議を行います。

随時 防災気象情報の作成・発信

気象状況に応じて注意報・警報などの防災気象情報を作成・発信します。

16:45 夜勤者へ引き継ぎ

天気予報を発表後、夜勤者へ明日までの天気の詳細について、防災事項や着目点などの引継ぎをします。

17:00 退庁

交替制勤務ということもあり、急ぎの業務がない限りは定時で帰ることが多いです。

① 現在はどうのような仕事をされていますか？

九州北部地方(山口・佐賀・長崎・熊本・大分)の各地方気象台の予報官と協力して、天気予報や注意報・警報、気象情報などの自然災害から国民の生命・財産を守るための防災気象情報の作成・発信を主に行っています。

② 大学で専攻したことがどのように活かされていますか？

大学では地球物理学を専攻し、主に気象学について学んでいました。大学時代に学んだ地球物理学の知識は、天気予報の作成に直結する知識も多くあり非常に役立っています。専門的な知識が必要でハードルが高く感じられることも多いですが、入庁後に研修の中で業務に必要な物理学を学ぶことができるため、気象学を専攻していない方でも安心して業務を遂行することができます。

③ どうのような仕事が印象に残っていますか？

入庁2年目にあたる2021年の冬に、初めて天気予報や注意報・警報を発表した時が一番印象に残っています。当日は九州でも大雪が見込まれる日で、発表した予報などが実際にテレビで使用されているのを目の当たりにして、気象台で発表される情報が多くの人の生活に影響を与えていることを改めて実感しました。

④ 国家公務員志望者へのメッセージをお願いします！

気象庁では、普段目にする事の多い天気予報や注意報・警報の発表の他、地震や火山、津波の監視業務や防災知識の普及啓発活動、地方自治体と連携した防災対応など様々な業務があり、自然災害の危険から命を守る情報を発信する重要な仕事を行っています。少しでも興味を持った方は、気象台の説明会に参加してみてください。皆様と一緒に働ける日が来ることを心待ちにしております！